

平成 21年 6月 26日現在

研究種目： 基盤研究 (C)
 研究期間： 2006～2008
 課題番号： 18530469
 研究課題名 (和文) ソーシャルワーカー養成のための大学統合カリキュラムの開発
 研究課題名 (英文) A Study of Integrated Curriculum Development for Baccalaureate Social Work Education

研究代表者

Sung Lai Boo (SUN LEI B00)
 兵庫大学・生涯福祉学部・教授
 研究者番号： 60299138

研究成果の概要：「社会福祉士法および介護福祉士法」の改正により、社会福祉士養成教育課程を有する教育機関では、2009年度から新カリキュラムに基づく教育が提供されている。そこで学士課程におけるソーシャルワーク教育の課題を考察した結果、①国際ソーシャルワーカー連盟の定義に基づく教育目標設定とカリキュラム開発、②大学の機能と特色別のカリキュラム研究、③大学と専門職団体、社会福祉施設・機関、学術団体との協働的政策実践、④ソーシャルワーク教育カリキュラムと学士力の一体的議論、⑤新たなソーシャルワーク実践についての地域社会を巻き込んだ大学内外でのアドボカシー活動の展開などが、大学統合カリキュラムにおいては必要であることを明らかにした。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|----------|-----------|---------|-----------|
| 平成 18 年度 | 1,400,000 | 0 | 1,400,000 |
| 平成 19 年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 平成 20 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,600,000 | 660,000 | 4,260,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：社会福祉教育・実習

1. 研究開始当初の背景

「社会福祉士法及び介護福祉士法」の改正により、社会福祉士に期待される新たな社会的役割とともに社会福祉士養成課程の新カリキュラムが平成 21 年度から実施されることとなった。ところで、ソーシャルワーカー

教育の主たる目標は「ソーシャルワーカー」という専門職者養成である。その意味では教育目標設定のために必要不可欠な「ソーシャルワークの定義」を確認しておく必要がある。しかし、その点があいまいなまま放置されてきた一方で、社会福祉士養成課程における教

育カリキュラムはどのような教育目標のもとに、いかなる専門職者を養成しようとしているのかが不明確である。なぜならば、資格取得ルートは多岐にわたっており、教育現場も多様である。以上のことから、法成立後20年の年限を経てもなお、ソーシャルワーカー養成も不十分であり、同時に社会福祉士養成においても社会の期待に応えてきたとは言いがたい。

2. 研究の目的

本研究では4年制大学における新しい教育カリキュラムの問題点と課題について、学士力の視点や国際的なグローバル基準も踏まえて検討する。そのうえで、大学統合カリキュラム開発において、今後の必要な取り組みについて明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 社会福祉士養成課程をもつ4年制大学の学部レベルでのソーシャルワーク教育を前提とし、日米韓比較の視点を持つ。

(2) 国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) の定義、IFSW 及び国際ソーシャルワーク教育学校連盟 (IASSW) による「ソーシャルワークにおける倫理～原理についての声明」、「ソーシャルワーク教育および養成のためのグローバル基準」等、日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会、日本社会福祉教育学校連盟など提言、議論等、全米ソーシャルワーカー協会 (NASW) での議論、米国ソーシャルワーク教育協議会 (CSWE) によるソーシャルワークの使命、目標、目的、定義、CSWE による大学認可基準、指針等を分析対象とする。

4. 研究成果

(1) 新たな教育カリキュラムは社会福祉士

国家資格には必要な内容であろうが、IFSW の「ソーシャルワークの定義」と照らし合わせると専門職養成の視点からも十分な内容にはなっていない。特に人権と社会正義の原理や社会変革、ソーシャルアクションなどマクロ実践の視点が弱いといえる。大学においては教育目標に合わせた内容、構成、選択、順序、関連性、統合、教育の結果を考えた上でそれらをカリキュラムに反映させる必要がある。

(2) 科目については、人間の生物学的・心理的・社会的機能の統合化と統一性が必要である。たとえば、IFSW の定義にもある「人間の行動と社会システムに関する理論を利用し、人と環境の接点に介入する」ためのアセスメントに必要とされる知識を得る専門科目をソーシャルワーク以外の専門家が教えるといった教員要件は旧カリキュラムと基本的に変わっていない。これらの科目は、一般教養科目でそれぞれの専門家から基礎理論を学び単位取得をした上で履修するといった専門的な科目に再編し、ソーシャルワークの専門家が教えることが望ましいであろう。

(3) 学部レベルでのソーシャルワーカー養成をするためには、各科目の目的、内容を十分検討した上で、科目間の関連性を明確にし、それらを統合化するためのFDや研究会等が学内外で必要となろう。特に、各科目をさまざまな専門家が教えている現状では、担当教員が学部カリキュラムの全体像を共通理解し、各科目群でのコミュニケーションによる相互理解と議論、そして、継続的なカリキュラム研究が不可欠である。

(4) 大学独自の教育理念・目標・目的とソーシャルワーク専門職がもつ理念、使命、目的との関係を明確にし、利用者および社会的ニーズ、目標・目的、構造、選択、順序、関連性、統合、教育の結果とその評価を含めた

カリキュラム・デザインが必要であろう。

(5) 今後の教育カリキュラム研究に関して必要と思われる取り組み

① IFSW のソーシャルワークの定義に基づく教育目標設定と教育カリキュラムへの反映

・ 学士課程における社会福祉教育は、社会福祉士養成教育のみにとどまらず、グローバル基準に合致した教育カリキュラム・デザインが必要。

② IFSW の「ソーシャルワークの定義」の普及、定着化のための段階的な働きかけ

・ 社会福祉士養成課程をもつ大学の学科長、コース長など教育プログラムのリーダーによる全国会議・地域ブロック会議の定期開催。グローバル基準の共通理解と教育の質の標準化。

・ 科目担当者別の研究会、FD 体制の確立

・ 科目別モデルシラバス集、モデル授業集、モデル教材などの開発と普及

・ 教育カリキュラム改革促進力を高める工夫

③ 大学の機能、特色別教育カリキュラム研究・開発

・ 大都市、小都市、農山漁村地域、総合大学、単科大学、共学、女子大学、研究重視型、教育重視型、地域密着型、国・公・私立

④ 専門職団体、施設・機関団体、学術団体、教育機関などの関係団体の役割・機能の確認

・ 政策実践、社会改革を専門に担当するアドボカシー、ソーシャルアクション部門の設置

⑤ 教育カリキュラムの充実～学士力の議論と一体的に論じることの意義

・ 「学士力」や「学習成果」の内容はソーシャルワーク教育の中に包含されている。

・ 分野の有用性を積極的に主張していく好機

⑥ 国際的評価・認証システムについての議論

⑦ 一般市民向けのアドボカシー ～「ソーシャルワークの力」” Power of Social Work” (NASW)を示す

・ 「さまざまな場にソーシャルワーカーが存在する社会こそが、安心して暮らせる豊かな社会づくりにつながる」といった専門職のイメージとソーシャルワークの力をいかにわかりやすく世の中に伝えるか？

⑧ 大学内でのアドボカシー

・ アメリカのある州立大学ではソーシャルワーク・プログラムの教育目標のひとつとして、大学全体の教養プログラムを豊かにすることを掲げている。すなわち、ソーシャルワークの科目を学ぶことによって、人間と社会に対する感受性を高め、人間のニーズ、社会問題、社会福祉問題などについて理解し、さらにはそれらの社会問題を解決する方法などを知ることができる。これらの学習成果は、ソーシャルワーク専攻の学生のみならず、専門以外の学生にとっても教養教育という点から学生の能力向上につながる。すべての学生にとってこのプログラムの存在が有用であるということである。日本においても、最も身近な組織である学内での働きかけが必要であろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

① Sung Lai Boo、前田美也子、学士課程におけるソーシャルワーク教育の課題、兵庫大学論集、14号、91-104、2009、無

② Sung Lai Boo、家族は福祉です～子どもを見つめる今、求められる福祉と教育、兵庫大学附属総合科学研究所報、12号、119-133、2008、無

③ 前田美也子、「生きがいコミュニティ講座」の実施過程と教育的効果～地域高齢者と学生による世代間交流型学習プログラムの試み、平成19年度武庫川女子大学高齢者栄養科学研究

- センター報告書、2巻36-46、2008、無
- ④ 木林友里夏、Sung Lai Boo、ソーシャルワーク教育との関連性からみるソーシャルワーク定義の解釈～アメリカのソーシャルワーク教育発展過程の歴史から～、最新社会福祉学研究、2号、12-20、2007、有
- ⑤ 星井純子、Sung Lai Boo、特別な教育的ニーズを有する児童のチームサポート～社会資源を活用した実践～、最新社会福祉学研究、2号、38-49、2007、有
- ⑥ Sung Lai Boo、韓国の貧困児童研究と地域実践、韓国の貧困児童と地域児童センター法制化に関する理論と実践、プスロギ図書出版、5-8、2007、無
- ⑦ 木林友里夏、ソーシャルワーク教育カリキュラムの分析と課題～中国・四国地方大学のカリキュラム分析を中心に～、最新社会福祉学研究、1号、71-72、2006、有
- ⑧ 前田美也子、ソーシャルワーカー養成のための教育コンテンツの開発と応用、大学教育と情報、私立大学情報教育協会、14巻3号、21-23、2006、無（依頼）
- ⑨ 前田美也子、Web-CTによるコミュニケーション技術体験授業、ファカルティ・ディベロップメントとIT活用、私立大学情報教育協会、130-134、2006、無（依頼）
- ⑩ Sung Lai Boo、前田美也子、協働体形成と地域児童センター設立過程を中心に、韓国の貧困児童と地域福祉力の構築、1巻、154-163、2006、無
- ⑪ Sung Lai Boo、前田美也子、東三洞・青鶴洞地域児童センター実践研究、韓国の貧困児童と地域福祉力の構築、1巻、203-260、2006、無
- ⑫ Sung Lai Boo、木林友里夏、錦織毅夫、ソーシャルワーカーに必要な学部カリキュラム開発のための概念的モデルの提案、吉備国際大学社会福祉学研究紀要、11巻、27-36、2006、有

〔学会発表〕（計 3件）

- ① Sung Lai Boo、基調講演：日本における社会福祉専門職養成教育の「達成課題」～日米比較からの考察、日本社会福祉教育学会、2008年11月7日、東海大学
- ② 前田美也子、Sung Lai Boo、社会福祉士養成課程における教育カリキュラムの課題～国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の定義との関連～、日本社会福祉学会、2008年10月12日、岡山県立大学
- ③ 前田美也子、Sung Lai Boo、韓国の貧困児童における子ども・家庭支援システム構築研究、日本社会福祉学会、2007年9月23日、大阪市立大学

〔図書〕（計 4件）

- ① Sung Lai Boo、前田美也子、地域児童センター・オンダルセム利用児童満足度調査に関する分析、東三洞地域児童センター、2008、37
- ② Sung Lai Boo、前田美也子、東三洞地域共同体形成のための地域福祉力構築の戦略、釜山広域市影島区東三洞、2008、48
- ③ 前田美也子、Sung Lai Boo、韓国の貧困地におけるコミュニティ実践モデルを活用した子ども家庭支援システム研究、大和出版印刷、2007、150
- ④ 村上須賀子、竹内一夫、横山豊治、前田美也子、ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック、勁草書房、2007、241

〔その他〕（計 8件）

- アウトリーチ活動等の実践小論
- ① Sung Lai Boo、地域に開かれた大学とは～新たなパートナーシップの形成に向けて、ボランティアの井戸端会議 in カレッジ実施報告書、東播磨地域ビジョン委員会ハートランドぐり石ネット、2009、12-22
- ② 前田美也子、車座談議、ボランティアの井戸端会議 in カレッジ実施報告書、東播磨地域ビジョン委員会ハートランドぐり石ネット、2009、23-24
- ③ 前田美也子、あなた自身から行動してみましよう～超高齢社会における西播磨地域の福祉、こころゆたかな人づくり500人委員会、兵庫県西播磨青少年本部、2008、1-13

④ Sung Lai Boo、前田美也子、貧困児童
青少年のための総合的支援システム提
案、韓国国会議員連盟貧困撲滅研究フォー
ラム、2008、147-150

⑤ 前田美也子、分野別学士力の提言～社
会福祉学、大学教育と情報、私立大学情
報教育協会、17巻3号、2008、3

⑥ Sung Lai Boo、公開記念講演：家族と
地域福祉力、西はりま地域づくり女性会
議設立10周年記念のつどい、西はりま地
域づくり女性会議、2008、3-5

⑦ 前田美也子、西はりま地域づくり女性
会議の活動意義とあゆみ、西はりま地域
づくり女性会議設立10周年記念のつど
い、西はりま地域づくり女性会議、2008、
6-12

⑧ Sung Lai Boo、前田美也子、ボランテ
ィアの力、東三洞地域児童センター、2007、
1-10

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Sung Lai Boo (SUN LEI BOO)
兵庫大学・生涯福祉学部・教授
研究者番号： 60299138

(2) 研究分担者

前田 美也子(MAEDA MIYAKO)
武庫川女子大学・文学部・准教授
研究者番号： 50309027

木林 友里夏(KIBAYASHI YURIKA)
吉備国際大学・社会福祉学部・助教
研究者番号： 30309603

(3) 連携研究者

なし